PHP新書「地震予報」読者の皆様へ 「No.1778 長期継続大型地震推定前兆変動」 原稿校了後の前兆変動変化についての続報

2025.04/15 (火曜) 14 00 発表

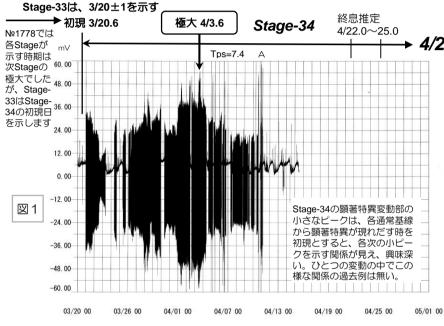
電離層モニター観測所 代表:串田嘉男 八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北村市大泉町谷戸8697-1

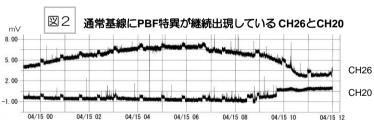
研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大 に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開して います。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。 本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実 験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に 発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁~35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され(前兆規模M6.1±0.5、海深補正 M0.9±3、推定規模M7.0±0.5)、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後 は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高 知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

№1778長期変動 Stage-34 (CH26 顕著特異変動+PBF特異) 4/29 を示す 対応地震発生の可能性有





※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。

CH20はPBF特異が同期出現しない時間帯もあります。

図3

A~B弧線以南の可能性は極めて低い

- ●推定領域:図3の太線領域内=大枠推定領域 図3斜線域=可能性が考えやすい推定領域 震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- ●推定規模:主震 M8.0±0.3 または 複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等

Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で 約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性(群発的な活動の可能性も有) ※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の 可能性は考えにくい。但し、今後出現する可能性有。出現した場合は続報予定。

●推定時期: 4月29日(4/28~5/2)が現状考えやすい 今後の観測で修正予定

○推定地震:震源浅い陸域地殻地震

○推定発生時刻:午前09時±2 or 午後06時±3(午前09時±2の可能性若干高い) ※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

C) Copyright 2025 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

現時点での誤差

4/29 (4/28~5/2)

◆終息と発生時期

終息時期 発生 4/22.0 頃→ 4/28 4/22.8 頃→ 4/29 4/23.5 頃→ 4/30 4/24.3 頃→ 5/01 4/25.0 頃→ 5/02

前情報で 3/20.6初現、4/3.6 極大の関係から推定される 時期を4/26±3と記したのは 誤りで、正しくは4/29±3で す。お詫びして訂正させて 頂きます。

◆図1のAを副極大と認識 した場合のTmap:Tps比か らの参考推定

> 発生 $3.5:1 \rightarrow 4/29 \pm 1$ $3.6:1 \rightarrow 4/30 \pm 1$ $3.7:1 \rightarrow 5/1 \pm 1$

- ◆前号に記したとおり、可能性が考えや すいCH26特異変動全体がひとつの変動 である認識が正しいことになりました。 初現~極大の関係からは 4/29 を示しま す。4/11未明に終息した顕著特異の再出 現は認められませんが、現在も図2のと おり、PBF特異変動が継続しています。 終息推定時期と発生推定時期は上記。
- ◆図1のとおり、顕著特異変動は小さな ピークが幾つも有、過去例では副極大が 出現する場合が多い様です。ちなみに図 1のAを副極大とした場合は、主極大の 方がわずかに鋭いため、Tmap:Tps比は 3.7:1よりも若干3:1に近い可能性が有。 各比率からの参考推定時期は上記。副極 大ではない可能性も有、確定は困難。
- ◆あくまでも参考ですが、16年10ヶ月継 続となる№1778前兆の初現 =2008.6年、 ・番変動観測装置数の多いStage-7 は 2014.5年で、これを極大とし、地震前兆 変動経験則である、Tfap:Tmap=20:13 に当てはめてみますと、概算で2025.4年 つまり2025年4月~5月を示します。こ のようなことがあるのか、偶然か誤りか 不明ですが、参考までに記しておきます。